

私のボート部の思い出

44期 加藤 亮

皆さんこんにちは。44期の加藤です。私は2005年に土木工学科（現：都市環境学科）に入学、大学院を2011年に卒業、現在の妻を東京から引き連れUターン就職&結婚をし、地元静岡（自称：富士山が一番よく見える街）にて、家族4人（妻、息子2人）と犬で生活しています。

季刊誌執筆の依頼を受け、改めて目的を確認すると「OB・OG会への関心を高め横のつながりを強化する」とありました。私から皆さまに情報発信できることは何かあるか、と考えたのですが、当時のボート部の様子と現在の私について記載するのが良いかなと考えました。

私は、中学でサッカー部、高校でハンドボール部に所属していました。中高校ともに同学年で試合ができるほど部員が多く所属しておりましたので、理工ボート部に入部した際には、部員が少ないことに大変驚きました。（当時は確か3名くらいでした）しかし、戸田に行けば、多くの学生がボートを漕いでおり、部員数については楽観的に考えていました。部員は少なかったのですが、その分、じっくり中島コーチや、42期の山下さんにボートの楽しさを教えていただきました。

しかし、その後も部員は増えず、特に山下さんが卒業してからは、私が部長となり、部員も依然、少ないままで練習、部の運営を全てやらなければなりません。先日の55周年の冊子にも記載されましたが、私が所属している間は、まさに廃部寸前でした。当時の私は、研究、ボート、ボート部としての事務的業務、アルバイト、遊び等、色々とやりたい、やらなければならない事があり、苦勞した記憶があります。

特に記憶に残っている点は、年末の納会です。先輩方の輝かしいボート活動の話聞き、現役の私と状況が異なることに驚きました。私もそのような環境であれば、インカレも出れたらどうか…など考えたこともありました。当時の私にとって、インカレ等の大会は遠い存在であり、試合よりも、どのようにしたら、新年度に後輩が入部してくれるか、入ってくれた後輩が辞めないか、ボート部として活動を継続できるのかを考えることがメインでした。納会（三平@新宿）にて、ある先輩からは、廃部寸前の状況に「もっと頑張れよ」と言われ、当時の私は悔しくて「部員も少なく満足に活動できない状況であるが、できる範囲で精一杯やっている」と、生意気にも反論したこともあります。もちろん、多くの先輩方は、「加藤がんばれ、負けるなよ」と言ってくださり、それを聞いたたびに、伝統あるボート部を廃部にさせてはならないと思いながら新宿西口の納会会場から家に帰ったのを、よく覚えています。

苦しい状況はその後も続いたのですが、何とか後輩が入ってくれ、廃部とならず、後輩がボート部を繋いでくれたことには大変感謝しております。また、当時の私が状況を変え

ることができず、苦勞させてしまった事を申し訳ないと思っております。私が卒業した後、しばらくは大変な時期がボート部としては続いていくので、後輩も大変苦勞されたと思います。現在は多くの部員もおり、活躍を聞くたびに、心から良かったと思っております。

私のボート部での記憶は、ボートに乗り、練習した記憶よりも、部の存続のため庶務を色々とやった記憶が強いです。大学入学前に想像していたサークル（部活）は、こんな感じではなかった、なぜ自分はこのような事をやっているのか、テニスサークルに入っていた友人を羨ましく思ったことも何度もあります。しかし、普通の大学生より上記の面で苦勞したかもしれませんが、OB・OG 含め多くの方に会い、多くのことを学んだことは、誰でも体験できることではなく、今の自分の基礎となっております。



現役時代の私（前列左側）と入部してくれた後輩達

現在、私はガス会社で働くサラリーマンです。37歳となり、会社の中では、若手でもなくベテランでもなく、いわゆる中堅というところでしょうか。業務は企画部署のため、予算・新しい施策策定など、いわゆる事務屋をしております。事務屋は、裏方です。スポーツ選手のように華のある主役ではありませんが、プレーヤー（現場）が迷わず、仕事をできるように、戦略・方針を考え、想定し、多くの関係者と調整しながら方向性を決めて行く大事な仕事と理解しています。また、（田舎ですので）地域の役員や子どものPTA役員などもしております。あの時のボート部での庶務経験がこんな形で生きております。

最後に、勝手ながらかつ、生意気ながら私自身がいつも考えていること、ポリシー？を述べたいと思います。

私が大事にしているのは、「今、目の前のことを一生懸命にやる」という事です。（当たり前と言われればその通りですが。）私もそうですが、皆さんも過去を後悔することがあると思います。あの時、もっと勉強していれば…、こっちの会社に就職していれば…等、しかし、後悔しても良い事はありませんし、過去ですので何もできません。逆に、将来不安だ、この仕事うまくいくかな…等、今後のことを漠然と考え不安になることもあるでしょう。私は子供が2人おりますが、小さい頃は子供の言語発達が遅くて悩んだり、現在は学校の宿題をやらないことが多くて、怒ったり、悩んだりの毎日です。また、仕事でも抱えている案件が上手くいくのだろうか、本当にこの仕事で良かったのか？等、数えればキリがないですが、小さな悩み・不安はたくさんあります。しかし、不安に思っても、あまり良いことはありません。過去を振り返ることも大事ですし、将来を考えることも大事だと思いますが、過去をいつまでも後悔しても、将来を漠然と思い描いて不安になっても、あまり意味がないと思っております。ボート部の4月の勧誘方法について後悔してもしょうがなく、新生が入部しなかったらどうしようと不安になっても、あまり意味がないと思います。シンプルに今、自分のできること、大切なことは何か、考えてみると、見えてくるものがあるかもしれません。

全ての物事は、長い目で見れば、良い時も悪い時もあり、ボート部の歴史もその通りだと思います。私の時代は、廃部寸前という危機でしたが、直近はコロナウイルスで活動できない等、状況は違いますが、大変な時期だったと思います。今後も大変な時期が訪れるかもしれません。そのような状況となった際には、なんで自分だけが…と思うこともあるでしょうが、シンプルに目の前を一生懸命することで、道は見えてくるでしょうし、周囲も助けてくれると思います。私もボート部在籍の際には、廃部危機という状況になりましたが、OBOGの周囲の方が、たくさん声掛けしてくれました。今回の私の文章が、少しでも皆様に伝わり、そんな時代もあったのかと思って頂ければ幸いです。ボート部に関するすべての皆様の今後のご活躍を、心から応援しております。



左…こんな感じで仕事しています 右…企画内容（イベント）を実施している所

以上